

Mi Vida en México

雨季に入ったメキシコは、これまでの乾季とは雰囲気が変わりました。午前中は晴れていても、午後になると必ずと言っていいほど雨が降っています。雹が降ることもよくあり、日本の梅雨とはひと味違った天気非常に興味深いです。

そんな雨が多くなったメキシコでも変わらず、刺激的な毎日を過ごせています。今月も日本では体験できないことについてレポートにしようと思います。

子どもにも高齢者にも優しい国

4月のレポートで、メキシコは私たちのような「外国人」にとっても住みやすい環境であるという点に触れました。住みやすいという点に関しては、メキシコ国民も同じように感じている人が多いようです。もちろん、日本よりも貧富の格差が大きいといった問題も深刻ですが、多くのメキシコ国民がメキシコに住んでいて楽しい、充実しているとよく口にしています。

私は、彼らがこのように口にするのは、「メキシコ人がフレンドリーで寛容であること」が要因ではないかと感じています。この要因は、メキシコ人の国民性だけでなく、社会の環境の充実度からも感じました。

特に、子どもや高齢者への環境が日本と異なっています。日本では、子どもが遊べる場所が年々限られてきていることをよく耳にします。公園での騒音が問題となるなど、子ども自身が環境に配慮しなければならないのが現状になっていると思います。

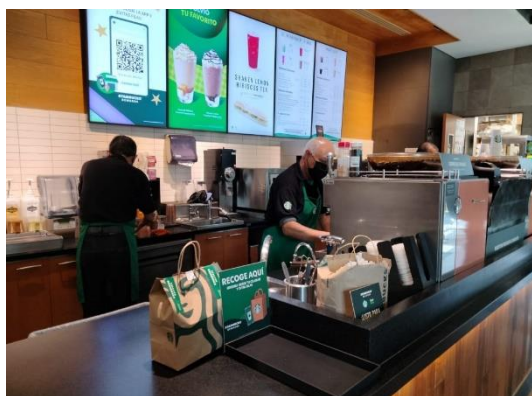
一方メキシコでは、子どもが思う存分遊べる場所が多くあります。公園だけでなく、ファストフード店や映画館にもよく遊具が設置されています。子ども連れの家族も気にせずに食事や映画鑑賞を楽しめる環境となっており、子どもだけでなく、保護者にとっても過ごしやすい設備です。

メキシコでは他にも日本とは異なった興味深い光景を目にします。スーパーマーケットでは、レジのすぐ近くに1人ずつ立っています。レジで会計を終えると、購入した食材などをその人たちが袋に詰めてくれます。それに対してチップを払うのがメキシコでは当たり前の光景となっています。この袋を詰める人たちは全て高齢者で、彼らが労働機会を得るために設けられたそうです。

高齢者が働いている場所は他にもあります。日本でも人気のスターバックスです。私が知る限りでは、メキシコシティで1店舗のみですが、店員さんが全て高齢者。店内は、普段のスターバックス以上により落ち着いた雰囲気でした。全員が高齢者であるという理由で、ドリンク等の提供が普段よりも多少遅くなるのは、利用者も暗黙の了解のようで、従業員に対しても配慮された店となってい

ます。

少子高齢化社会という問題に直面している日本とメキシコでは状況が異なりますが、年代関係なく誰もが不満なく楽しめたり、活躍できる場があるのは、非常に魅力的なことだと思います。メキシコ人の生活の充実ぶりを支えているのは、フレンドリーな国民性とこのような環境が関係しているのではないかと感じました。



従業員が高齢者のスターバックス



ファストフード店にある遊具

気球から見たピラミッド

4月から5月にかけて、私がメキシコに興味を持つきっかけとなった中島エバさんがメキシコに来ていました。エバさんと一緒に日本人の方々が何人か旅行としてメキシコに来ており、様々な場所を訪れ、観光を楽しんでいました。

私も何日かエバさんたちに同行させてもらいましたが、その中で特に印象に残っているのがテオティワカンで乗った気球でした。

世界遺産にも登録されているテオティワカンには、メキシコ最大の古代都市遺跡で、大きなピラミッドが2つ見られます。メキシコシティから車で1時間ほどと近いこともあり、いつも多くの観光客が訪れています。

そのテオティワカンで気球に乗って上空から遺跡を見るといったツアーがあり、エバさんたちに同行して気球ツアーを体験しました。

テオティワカンの気球ツアーは朝のみのイベントで、早朝の4時にメキシコシティを出発しました。受付を済ますと、目の前に巨大な気球が次々と準備されました。その後気球に乗り、午前6時半頃、日の出と同時に離陸しました。高さ約800メートルまで上がる気球は、日の出と約40個の気球やピラミッドと言葉に言い表せないほどきれいな景色が広がっていました。

約1時間の飛行を終え着地しましたが、この時、着地する場所は事前に決まっていなかったようです。ある程度の高さの調整等も行われていますが、それ以外は全て風任せ。実際に着地する際は、民家の庭に着地するかと思うほどの位置でした。エバさんは、着地する場所が分からないのは人生と同じだと言っていました。コントロールしようとするのではなく、自然に任せ、そこから見える景色を楽しむ。乗っていた気球を操縦していたスタッフも「神のマジック」と表現するなど、どこに向かうか分からない、そんな景色だからこそ、より楽しめたツアーとなりました。



気球から見たピラミッド



メキシコの伝統行事 Quinceñera

メキシコをはじめとするラテンアメリカの国々では、“Quinceñera”（キンセアニェーラ）と呼ばれるイベントがあります。これは、女性の15歳という意味で、言葉の通り、女性の15歳の誕生日を祝うイベントです。これは、女性の成人と言われている15歳まで立派に成長したことを祝うもので、日本の成人式にあたる行事です。

私のホストマザーの姪っ子さんが5月に18歳を迎え、コロナウイルスの影響で出来ていなかった15歳のお祝いを今年することとなり、私も参加しました。日本の成人式と位置づけられているお祝い行事ですが、どれも想像を超える豪華さでした。

ラテンアメリカそれぞれの国によって、イベントの内容が違うようで、カト

リックが根強いメキシコでは、教会でのミサからお祝いが始まりました。予定時間の午後6時でも始まる気配のないというメキシコらしさを感じながら待ち、しばらくするとミサが始まりました。ミサでは、音楽と共に15歳まで成長できたことを神様に感謝することや牧師さんがお祝いの言葉を述べられていました。

ミサの後は、パーティー会場へと移動しました。招待状を片手に家族や友だち約150人がパーティー会場に集まりました。主役が入場し、プレゼントを渡し、マリアッチと呼ばれるメキシコの音楽を演奏する楽団の音楽を聴きながら、食事を楽しみました。食事後は、主役のこれまでの15年を振り返る動画や家族の挨拶があり、まるで結婚式かのような雰囲気でした。その後は、一晩中ひたすら踊りました。常に盛り上がっていたイベントですが、踊る時間になり音楽がかかると、お年寄りから子どもまでみんな立ち上がって踊り、一際盛り上がりました。メキシコに来てから何度もこのような光景を見ていますが、何度見ても良い瞬間だなと感じます。

キンセアニューラは正装で参加するので、女性の参加者は主にヒールで踊ります。長時間ヒールで踊った参加者への心配りとして、主役の名前が入ったスリッパがプレゼントされていたのも印象的でした。

メキシコでは、女の子が生まれると分かったら、キンセアニューラに向けて

貯金をするほど大切にされている行事だそうです。今回私が参加したキンセアニューラの主役は、水色のドレスに身をまとい、移動はリムジンを貸切るなど日本ではあまり考えられない規模でした。

キンセアニューラという行事の存在は知っていましたが、実際に参加して想像していた以上の規模や雰囲気を経験することができました。メキシコに住んでいても伝統行事に触れる機会はあまりないので、貴重な機会となりました。



踊りを楽しむメキシコ人



女性の参加者がもらうスリッパ
主役の名前と日付、主役が選んだ
デザインとなっているようです

メキシコ留学も終盤に入りましたが、メキシコのことを知れば知るほど魅力的な国だと感じます。学校生活も残り1ヶ月を切り、残りの時間が限られていますが、少しでも多くのことを吸収できるよう引き続き頑張りたいと思います。